

野球部は健闘した！

7月13日、野球部は夏の甲子園予選に出場した。相手の北条高校は、かつて神田先生が指揮した強豪だ。授業実施日だったので、生徒の皆さんには応援に行ってもらえなかったが、私は球場へ足を運んだ。結果は0：5。少ない部員数にもかかわらず、9回までしっかり戦えた。負ければ悔いも残る。しかし、全国で優勝するチーム以外はどこかで負ける。黒土にまみれ、躍動する姿が眩しかった。お疲れ様。

さて、問題！ジャジャン！わかったひとは篠原まで。

今週号中に出てくる漢字、「蒲公英」「向日葵」「蓮」「馬大頭」全問正解者先着5人に粗品を進呈！

蒲公英の戦略

先日、庭の手入れをしていると蒲公英が綿毛をつけていた。広がったら大変なので、すぐに引き抜いた。ところが、根元で切れてしまい、根まで除去することができなかった。これが蒲公英の一つの戦略。根が残っていたら、また茎を伸ばし、花をつけ、実をならせることができる。実際冬場は、根だけ残して上部は枯れてしまい、次の春を待つ。もう一つの戦略は、綿毛だ。風に乗って遠くまでその種を運ぶ役割がある。小さい頃に蒲公英の綿毛を摘んで、一度は吹き飛ばしてみた経験があると思う。その時、けっこうしっかり息を吹きかけないと飛んでいかなかったのではないかな。強い風だと遠くまでその種を蒔くことができる。蒲公英は、筆られても根を残して次に備え、その綿毛の種は強い風が吹くまで我慢して先端に留まり、ここぞという強い風に煽られ、遠くまで旅をする。そして、その種が落ちたところで懸命に生き延びようとする。たとえアスファルトの隙間であっても…。蒲公英おそろべし。

向日葵は太陽の位置に合わせて蕾の向きを変える？

7月14日は、向日葵の日。この名前の国内初の気象衛星が打ち上げられた日にちなんでいる。一説によると、向日葵は北アメリカ原産のキク科の植物で、日本には17世紀ころ伝来し、その種を食用や医療用に使った。また、各地で向日葵畑が観光地になっているが、中でも佐用町の向日葵畑は有名だ。向日葵の茎は、その成長ホルモンが日光の当たらない側に多く集まり、日光の当たらない側の方がより成長することから、その先端にある蕾が太陽の方に曲がるため、日に向かう葵という中国名（向日葵）がつき、その生態の「日廻り」という日本語とコラボして「向日葵」を（？）と呼ぶようになった。徳島の大塚国際美術館には、ゴッホの描いた七つの向日葵のレプリカが勢揃いしている。個人所有になっていたり、焼失してしまったりしていて、ゴッホの本物の七つの向日葵を一度に見ることは叶わないが、ここには揃っている。ウクライナの国旗は、上部の青空と下部の小麦の黄色からなる。その黄色はウクライナの国花である向日葵の色でもある。向日葵は、今ロシアへの抵抗の象徴としても注目されている。今ある日本の平和に感謝。



蓮は開花の時期を迎えた。「蓮は泥より出でて泥に染まらず」

ひめじ別所駅からの通学路に、蓮池が広がる。その蓮に花が付き始めた。仏教では蓮華といい、極楽浄土を象徴する。一説では、その花の中心部の花托が蜂の巣に似ていることから、「はちのす⇒はちす⇒？」と呼ばれるようになったようだ。アニメ「鬼滅の刃」の初期の主題歌「紅蓮華」にも使われている。紅蓮華とは、仏の救済の働きを意味するそうだ。その根は蓮根といい、その穴が開いている形状から「見通しがいい」ということで縁起が良いと言われ、お節料理として食されている。「蓮は泥より出でて泥に染まらず」という諺もある。蓮は泥水の中で育ちながらも、まっすぐ伸び、美しいピンクの花を咲かせる。釈迦は「蓮は泥（困難や悲しみ）を養分にして成長し、そこから立ち上がり、自分なりの清々しい大輪の美しい花（人生）を咲かせる」と説いたとも言われる。蓮の如く成長したい。蓮の上を馬大頭も飛んでいた。

スマイルフェスタ：17日 11:30、大手前公園に集合！ダンスチームのパフォーマンス!!

スマイルフェスタが、7月16日（日）・17日（祝）に大手前公園で開催される。キッチンカーの出店も多数あったり、高校生が企業とコラボして出店したりと楽しいイベントになりそうだ。去年の文化祭で注目を集めた本校のダンスチームを中心に結成された新たなダンスチーム（まだ非公認だが、私の推し!）は、17日 11:30、大手前公園特設ステージに出演する。力を結集して応援しよう!!!